

Centimetres

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

水藩蓮田一五郎古郷之遺書寫

特 別
76
9310

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

まへにわらふをわらふの遊ハ一御母様と馬大如も遊され
たり子侍もいれお遊なす遊ハさうくくけい遊成三度の
少そやりくお遊のり二度書初めりも半小く前
後沈の中御母様の儀禮のゆゑに少中候なり
上り一内も許すを屋をいふお初見一御母見ふお初見
い書物もをわらふのゆゑに少中候なり
年小冬一りく一且人目とをいけりやりく
昨く遊ハ一馬大如もをわらふのゆゑに
遠田一五郎

同三月朔日 御母上様
馬大如のいへり

布しふれもをわらふのゆゑに
のり遊ハ一御母様の儀禮のゆゑに
遊ハさうくくけい遊成三度の
少そやりくお遊のり二度書初めりも半小く前
後沈の中御母様の儀禮のゆゑに少中候なり
上り一内も許すを屋をいふお初見一御母見ふお初見
い書物もをわらふのゆゑに少中候なり
年小冬一りく一且人目とをいけりやりく
昨く遊ハ一馬大如もをわらふのゆゑに
遠田一五郎

さうもお和清母様の御方の
才骨も碎り思ひ小治彦さま御母様も
まはつと内々さまお侍りありやつし
忠孝義の爲にねしいらし力と合し
お女さまも御さまお年不忠お孝の心
御高御方御方ういお女さま大病お
思ふ御方ういお女さま大病お
何れお人お女さま思ひ合し

お女さまの遠くお女さまお女さま
と二十八年前此御方思ひ一つお女
お女さまお女さまお女さま
御母様もお女さまお女さま
お女さまお女さまお女さま
お女さまお女さまお女さま
お女さまお女さまお女さま
お女さまお女さまお女さま
お女さまお女さまお女さま

尽しつゝ一昨の事いふはふゝる事なりしに
世の中も神もいふ方と思ひあつた

四月朔日 御手抄様 一五郎

口上

先代家内後法捕益御機嫌終り遊少存世故をぬれ
小生去月三日到好一葉の道々本懐をいれ
共四人にて後故彦日及自許高節ハハ所詮本多
信行先今々近せり涉走れり大人とも知れし
両層情とれきり少紅紙等難尽し生希お信をり

ふれん終小天の道懐い受小少新は後何れ
一書もめりわな家郷の念一祭血涙小洗三
大幣と後人列存中獨存漢法も弱心之至と思
何れ和交をり前以り是一書に先僕の心中
を佈り後母も中老ら河卒御無隣由女
立身難金も相済去月七日評定所
不害ねれり延昨日来りり禁幸二人も大
以由不徳難い定る素心もふお伸内
も連しりぬる物とす心何れ典刑

礫の鼻首とお見之りゆを是に受悟の亦るお催合
如何に之り申も毫毛いし心や唯々日暮に申す施
些位仕いハ母と一りとの存何卒は一通法直系より此
所渡何れもとりきりぬれくまはあ教を程を郵無の
一書眺をばくよ紅派に沈三文字お徳り如何におまけ
返——も不致定と前後不調法相合り兼く申す大人を
は續分るとも郵債のぬれ未月半とお見之り他日僕も
お合りく招魂の系或儒道にお郵の上い何れもりく
指す郵物もも略ちくく此の序つて

四月朔日誌

康再叙

恭懐する大人

一 三月五日漸々ノ事と筆一本と施さる墨かたきくはるたの
とくす百ノ日一件始ゆりた略す書す七日評定ハ出た八日
ゆく氷府ノ人宮田漸着る好その細川友ノ自訴して
細川家ノ幕ハ本多守衛ノ人ノ聞吊宮田某ナリ者ヲ知
且自訴セシ意味ハ尚更之水藩ノ人物ト聞ハ其所謂キ即チ
思ふノ實ニ飢渴飲食 於ハヨリ元甚シ

三月三日於閣老脇坂彦之郎口味

欲挽頰波回世運。一朝斬破共魁頭。殘軀縱為葦花滅。凜々英名

三月廿四日五日雪ゆ。細川春の郎より。又空晴。月影のさしりり

千載流

ゆをばりり思ひの雪の時をいまわくもこれ春の夜の月

陽田川の花いとあつとくは花見ふた

と海人の花をよほふ引ひて嵐まらまの身をたれなる

大の日はふけりて思ひ辞世の歌浪は

色唐をいそ野の美ふくもあまき惜ずらふ散山てくや

まのわ深く深り色唐とい散る後そなを白むる

母を思ふ

あきら福ふまゝなす少飯の園なりぬるもあまふなむ

あこれなるはひりいそきもあまふ胸ふたは母のあま

ひりまもあまゝて福のゆあまい母を思ふの涙なりり

ち人の様花一枚のりていりり

ち人のあまねもあまいまはれると一福しいうを思ふ

寄落衣述懐

いそうねいつう山花のよもいそくせきく敬振の那

世のあま思ふいそくせきく敬振の那

世の為少思ひはくやふ心天の命はもてはるる
今日杞憂一日深。孤忠欲併妖氣侵。休言身無功效。心有明神堅赤心。
嗟予十歲表先親。成立一仰慈母訓。大義不義忠孝廢。生事誰陳
七律欲明大義正華夷。須鈍豈圖失事宜。身死功名不得志。空忠孝恐相虧。
憤塊隆々衝天興。血淚潛々滿襟。五十八年夢乍醒。一片正氣大空歸。

七日夜夢與母賞祀於庭前。樂甚矣。已而寤不覺
血淚萬行。因賦一詩。

綠酒奉歡慈母傍。花從清宴興無疆。三更夢寤驚起坐。不在庭闈在御

隅。田川和歌之題目。

春滿墨江烟景新。櫻花爛熳闌紅塵。可憐昔日遨遊子。翻作從今就死人。

三月廿七日評定所口吟

伏節元朝大義明。挺身欲拂海鯢橫。回頭人在總如夢。十載空餘忠烈名。
身嬰銳志愈雄剛。肝擬父子椒山風。生前恩波報無處。除共聊知效寸忠。
道理貫肝義填胸。從容焚處死生中。安知一片忠魂鬼。夙夜儼然護皇居。

偶作

函囚乍過六旬日。每憶家鄉血淚垂。縱有歸心遠夢。難奈法比身隨。
既以一死託銳銳。只悲慈母破心腸。幽囚夜半孤眠夢。偏向故園住處行。
几尺小堂獨懶眠。千憂除去百悲傳。家鄉夜々相思夢。共誘春風繞枕邊。

五律

皇道久衰。賴誰能載至尊。每回重慘毒。醜虜難吐吞。不有迅雷斷。
爭支狂浪翻。嗟予深感慨。先士報天恩。

釣是留皮豈偶然。功名欽定遠賢。洋夷未駢以先死。斤丹心好奏天

前書蓮田兄遺書

海中之極北心かくし。邪仁やくいひて。やくいひて

右字人諒哉 文久三年癸亥歲晚春於洛陽竹蓮寺寫終

文久三年癸亥中秋寫之

坪井氏

